

令和8年度 調布市立北ノ台小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
○思いやりのある子ども ○よく考える子ども ○明るく元気な子ども	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像、教員像、児童・生徒像	
<p>目指す学校像【多様な関わりの中で、全ての子どもたちが自らのよさや可能性を引き出し伸ばす学校】</p> <p>(1) 児童にとって 「互いの違いを認め、支え合い、他者の役に立つ喜びを味わえる学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心を育て、多様性を包摂する学校 ・次代を担う子どもたちに求められる学びを実現する学校 ・心身ともに健康で安全に生活する力を育む学校 ・一人一人の児童の思いに寄り添い、安全・安心を守る学校 ・グローバルな視野を身に付け、世界で活躍できる力を育む学校 <p>(2) 保護者、地域にとって 「安心して子どもを通わせ、教育活動に参画したいと思える学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域とともに児童を育み、成長を喜ぶ学校 <p>(3) 教職員にとって 「多面的・多角的な児童理解に基づき、組織の中で自己の職責を全うする学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のウェルビーイングを実現する「チーム北ノ台小」 	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<ul style="list-style-type: none"> ○児童は素直で真面目であるが、全体的におとなしく控えて自己肯定感が低い児童が多い。児童が自分のよさに気づき、自分のよさを生かすことのできるよう環境を整え、児童が自ら考え、主体的に活動する学校にすることが課題である。 ○特別な配慮や支援を必要とする児童が一定数いる。また、不登校及び不登校傾向のある児童が多い。校内委員会、不登校対策委員会の定期的な開催や SC、関係機関と連携した組織的な対応を進めることが課題である。 ○学習指導要領や新たな教育課題への対応がまだ十分とは言えない。校内研究や OJT を通して、教員の指導力を向上させることが課題である。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・日常生活に必要な語彙について、その意味や特質を理解し適切に使う力 ㊧・叙述から想像したり思考したりしたことを自分の言葉で表現し、伝え合う力 ㊨・言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、自分の生活に生かそうとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTや辞典を活用して、調べる活動を充実させる。読むことや書くことの学習の中でも、言葉に着目し、広く深く考えさせる。 ・一人一人が自分の考えをもてる指導計画を立てる。個人、小グループ、全体による話し合い活動を工夫して取り入れる。 ・授業を通して身に付いたことや学びがどのように生かせるかなど、自分の学習状況の振り返りを充実させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・必要な情報を集め、情報や資料を読み取り、問題解決に向けてまとめる力 ㊧・根拠や理由を明らかにして考えたことを説明したり、資料などを用いて作品や図表にまとめたりする力 ㊨・主体的に学習問題を解決し、学習内容を生活に生かそうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査活動や諸資料を使って情報を調べたり、読み取ったり、まとめたりする活動を取り入れる。 ・自分の考えをノートにまとめたり、説明したりする活動を充実させる。また、複数の資料を比較して考える問題を取り扱う。 ・日常生活に関連した資料を提示し、児童の疑問や問いから学習問題を設定する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・数量や図形についての概念や性質を理解し、確かな知識・技能を習得する力 ㊧・筋道を立てて考察し、数学的な表現を用いて順序良く表現する力 ㊨・数学的活動の楽しさに気づき、学んだことを生活に活用しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算のきまりや作図の手順、立式の根拠を説明させるなど、習得した知識・技能を活用する機会を増やす。 ・問題の種類に応じて図に表したり、互いの考えを説明し合ったりして問題解決の糸口を見付けさせる。 ・数や量の大きさを実測する体験活動や日常生活に結び付いた問題を多く設定する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・見通しをもって観察・実験を行い、自然の事物・現象の性質、規則性を把握する力 ㊧・自然事象に対して問題を見出し、予想や仮説を基に具体的な解決策を発想し、結果や考察を基に実験結果の妥当性を判断し、結論を導く力 ㊨・自然や生命に親しみ、他者と関わりながら学習し、学んだことを日常生活に生かす態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象との出会いを大切に、問題づくりをしていく。単元の内容と特性に応じた問題解決の場を設定する。自然事象を量的・関係的、時間的・空間的、質的・実体的な視点などの見方・考え方を働かせられるような学習環境をつくる。 ・比較、関係付け、条件制御、推論、因果関係、連続性、多様性など、理科の見方・考え方を、どの単元でどのように働かせていくのかを見通した学習計画を立てる。 ・粘り強く考える、他者と学び合う、学んだことを生活に生かす、生命について考える時間を計画的に設定する。

生活	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・自分自身、身近な人々、自然の特徴や関わりに関わり、生活に必要なことを身に付ける力 ㊧・身近な人々、自然との関わりを意識し、生活について考え、表現する力 ㊨・身近な人々や自然に関わり、意欲をもって生活を豊かにしようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・同記事象と繰り返し関わる場を設定し、児童が試行錯誤することを通して、生活に必要なことを気付かせる。 ・自分の考えを言葉や絵で分かりやすく表現し、互いに伝え合う活動を多く設定する。 ・実際に動物や植物に触れ合ったり、地域の人々と交流したり、体験活動を多く取り入れる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・曲想を生かしながら、工夫して演奏したり表現したりする力 ㊧・曲の良さを自ら見付けたり、創造力を生かして表現したりする力 ㊨・音楽と関わる楽しさを感じ、他者と協同しながら音楽活動に参加する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、段階に応じたパートを選択させ、個々のレベルに応じた教具を選べるように促す。 ・様々な楽器や編成の音楽を取り入れ、曲想や音色の良さをその都度自分の言葉や演奏で表現させる。 ・他者と演奏したり考えを伝え合ったりする時間を設け、音楽を楽しむ主体性を養う。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・自ら創造的につくったり、工夫したりして表現する力 ㊧・創造的に発想、構想し、自分の見方や考え方をより深める力 ㊨・つくり出す喜びを味わい、楽しく豊かな生活を想像しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な見方について、自分の感覚や行為を通して理解させ、材料や用具を選択し活用させる。 ・ICTを活用し、造形的なよさや美しさについて効果的にイメージをもたせる。 ・主体的に表現したり、観賞したりする題材を児童の実態に応じて設定する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境について理解し、それらに関わる技能を身に付ける力 ㊧・日常生活から課題を設定し、解決方法を考え、表現するなどして、課題を解決する力 ㊨・生活の営みの大切さに気づき、家庭生活をよりよくしようと工夫する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を増やし、ICTを活用することで、生活に必要な知識や技能を確実に習得させる。 ・単元の終わりには家庭での取り組みを設定する。家庭との連携をとり、自分の家庭や自分自身の問題点に気づき、それらを交流することで、解決する方法を自ら考えられるようにする。 ・問題解決の学習過程を通して、課題を解決できた達成感や喜びをもたせることで、さらによくしていこうという意欲をもたせて工夫、実践させていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・各種の運動の行い方や健康・安全について理解し、動きや技能を身に付ける力 ㊧・自己の課題を見付け、思考し判断するとともに他者に伝える力 ㊨・運動に親しみ、健康の保持増進と体力向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と見合うことやICT機器の活用を通して、自分の動きを客観的に確認して修正できるようにする。また、健康な生活など日常生活に関連した学習課題を設定し、課題解決に役立つ保健領域の主要な概念を習得させる。 ・課題解決のための時間や場、補助具などを用意し、児童同士が試行錯誤しながら課題解決できるようにする。 ・技能差に関わらず、全ての児童が活躍できるように教材を工夫し、一人一人が運動することの楽しさや喜びを味わうことができるようにする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・外国語の音声や文字について、日本語との違いに気づき、実際に活用する力 ㊧・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力 ㊨・他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT、ICT等を活用して、体験的に言語や文化についての理解を深めることができるようにする。タブレットを活用し、個別最適な学びができるよう使い方を指導する。 ・「目的、場面、状況」に応じて、児童が思考を働かせながら、自分の考えや気持ちを伝え合えるよう例を示し、友達と繰り返しやり取りをさせる。 ・単元ごとにねらいを示し、振り返りを行うことで、自らの学習状況を確認させ、達成感を味わったり、学びを調整したりできるようにさせる。
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・道徳的諸価値について理解し、自己を見つめる力 ㊧・他者対話したり協働したりしながら物事を多面的・多角的に考える力 ㊨・自分の経験や感じ方と照らし合わせながら、考えを深めようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入や教材提示を工夫し、道徳的諸価値を自分事として捉えられるようにする。 ・話し合い活動を充実させ、様々な考えに触れる時間を設ける。 ・振り返りの時間を設定し、これまでの自分や今後の自分について考えられるようにする。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ㊦・相手と主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさを知り、日本と外国の言語や文化について理解する力 ㊧・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力 ㊨・外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT、ICT、音声教材等を活用して、体験的に言語や文化についての理解を深めることができるようにする。 ・授業の流れを明示したりワークシートを作成したりして、活動の「目的、場面、状況」を明確に提示することで、児童が思考を働かせながら、自分の考えや気持ちを伝え合えるようにする。 ・ALTとの1対1の会話や、友達同士のやりとり、教え合いなど、学習形態を工夫することで、児童が達成感を味わったり、学びを調整したりできるようにする。